

十二童子相接取炬、下海附火、諸童子履潮如地、入地如水、震上大石、以火燒推、炎揚達天、其形朦朧、所燄飛、其間經旬、雨灰滿部、仍召集諸祝刀禰等、卜求其祟云、阿波神者、三嶋大社本后、五子相生、而後后授賜冠位、我本后未預其色、因茲我殊示、惟異、將預冠位、若禰宜祝等不申此祟者、出危火將亡禰宜等、國郡司不勞者、將亡國郡司、若成我所欲者、天下國郡平安、令產業豐登、今年七月十二日眇望彼靈島、烟覆四面、都不見狀、漸比辰近、雲霧霽朗、神作院岳等之類、露見其貌、斯乃神明之所感也、日本紀、天武天皇十三年十月壬辰、是夕、有鳴聲、如鼓聞于東方、有人曰、伊豆島西北二面、自然增益三百餘丈、更爲一島、則如鼓音者、神造是島響也、とあるは今いづれの島とも知がたし、故こゝに附して後勘をまつ、

神位 官社

續日本後紀、承和七年十月丙辰、奉授伊豆國無位阿波神從五位下、以伊豆國造島靈驗也、文德實錄、嘉祥三年十月壬子、伊豆國阿波神授從五位上、同年十一月甲戌朔、詔以安房神列於官社、仁壽二年十二月丙子、加伊豆國阿波神正五位下、又齊衡元年六月己卯、加伊豆國阿波神正五位下、同位並出、不詳

志理 太平宜神社

志理 太平宜は假字也○祭神素戔鳴尊、志○白田村に在す、國志、伊豆志に、後八幡宮ヲ配ス、貞和三年ノ棟札ニ、白田來濱神社新羅擁護神也、野州岩船山ト

和の字諸本に脱す今本に補ふに據りて和字なるべしと云るぞ宜しき

同神也、と云り、○伴信友云、志理太宜は白田來也、と云るは乎字の脱たる本のあるより附會せしなるべし、乎宜は下に布佐乎宜神社もあれば脱字なるべし、○又云、按素戔鳴尊新羅へ渡り坐シ古事ニヨシアリ、とも云り、

南子神社

南子は美奈美古と讀り○祭神詳ならず○三宅島神着村に在す、今御笏明神と稱す、註考

伊波氏別命神社

伊波氏は假字也、別は和氣と訓べし、○祭神明か也○君澤郡梅名村に在す、今右内明神と稱す、志例祭 月 日、

伊豆志に、慶長九年ノ棟札ニ、天石門別又名櫛石窓亦神石窓此御門之神也トアリ、と云り、

神位

國內神階記云、從四位上いはてわけのみこ、

穗都佐和氣命神社

穗都佐和氣は假字也、○祭神明か也○在所詳ならず

神位

國內神階記云、正五位下はつさわけの明神

大津往命神社

大津往は於保都由岐と訓べし○祭神明か也○手石村に在す、今王子宮と稱す、志